

東北海道現代俳句協会会報

第14号

発行人・石川青狼
編集人・鮎橋郁香

令和四年七月二十日

◆第三十二回 東北海道現代俳句協会総会

令和四年度の定期総会は二月十七日開催の予定であったが、新型コロナ感染症の急激な感染拡大により紙面での実施となつた。初めに役員十三名に対しアンケートを実施し、総会の開催方法について意見を聴取。今年も紙上での開催やむなしという結果を受け、全会員に資料を配付した。会員数三十八名中、承認が三十七名、一名は未回報だが、賛成多数ということで令和三年度の事業報告、会計および会計監査報告と令和四年度事業計画案並びに会計予算案が承認された。

不可抗力とはいへ、二年続いて紙上での総会とせざるを得なかつたことをお詫び申し上げますと共に、会員各位のご理解ご協力を厚くお礼を申し上げます。

また同様の理由にて、令和四年度現代俳句協会理事会・総会（三月二十七日・東京開催、石川青狼理事出席予定）も紙上のみの開催となつた。

◆第二十八回 東北海道現代俳句大会 開催

六月二十六日（日）釧路市生涯学習センターを会場に、三年振りに対面の開催となつた。好天にも恵まれ、三十名の出席者を迎えることができた。今回の講演は釧路文学団体協議会副会長、詩人の藤田民子さんによる「私の小さな俳句体験」で、広幡茂氏との交流や藤田さんの俳句作品の紹介など、幅広い活動の一端を見せて頂いた。

三月に大会要項を発送し、集まつた百三十組二百六十句を講師の藤田民子氏など選者十七名がそれぞれ特選二句と佳作十句を選考、大会最優秀作の伊藤やす氏をはじめ入賞者に賞品を授与した。上位入賞者及び作品は次の通りで、会員作品は後記している。

なお懇親会は中止とし「藤田民子さんを囲む会」を九階レストランまいづるで開催、十七名が出席した。

来年の第二十九回大会（帯広市）及び札幌市の北海道大会も無事に開催できるよう祈念して散会となつた。

◆北海道現代俳句大会賞

履歴書を一度も書かず畠を打つ 伊藤 やす

（北海道新聞釧路支社賞）

鳥雲に空き家に残る火伏せ札

松原 静子

葱坊主皆んなどうしているのかな

高橋 テル

白鳥の風掴むとき北を向く

江波戸 明

以下、地区関係分

◆優秀賞◆夫の手を借りて坂道あたたかし 吉野喜代子
◆同◆抽出しにナイフの替刃利休の忌 稲川 青狼
◆佳作賞◆ぼた山に埋もれし叫び五月祭 北原 白道
◆同◆ひらがなの図鑑を送るつくしんば 佐藤かよ子
◆同◆ルーへより覗く余生や春日向 萩野つた枝



— 全員集合 —

◆第三十一回 北海道現代俳句大会（旭川市）

北海道大会もここ二年は紙上のみだったが、今年は中北海道ブロック主管で六月十九日（日）旭川市トーヨーホテルを会場に、講師の現代俳句協会副幹事長・神野沙希さんを迎えて開催。演題は「偶然を喜び、一回性に賭ける」。当日出席者は、石川会長、荒川、大沼、よしざね、鮎橋。暑い中、遠いところをお疲れ様でした。



◆◇ 行事予定 ◇◆

◎釧路現代俳句会 墨書き展

日時 十月二十日（木）～十一月十七日（木）

場所 釧路市交流プラザさいわい

昨年は十三名の会員が参加。詳細は後日連絡

◎第九回 東北海道現代俳句協会賞

作品募集 八月中旬より、締切は九月末

選考会議 十一月。選考委員は後日発表

授賞式 令和五年二月 第三十三回総会席上

②協会資金の一部を基金化し、不慮の支出に備える。収支予算表とは別記、明示する。

③釧路文学団体協議会への団体加入。年会費三千円、釧路地方文学界の更なる発展に寄与することを目的とする。

四
月

バラス敷く無闇矢鱈に落の薹
老人の自転車のベルとよむ春
寿命百年平らたいらの春光
寛解を五階の窓へ春の雲
春鹿に此の世の流れ問われたり
センサーにあてがう真顔四月馬鹿
叔母が逝く黙食できない通夜の年
桜しへ父居るよう寄り道す
霞の薹特等席の眠りかな
墓標無きキンギヨンコカメ春の序
ハニーチーズペフエ密会者たちの卒業
春暮るる証明写真の箱に入る
俎板は吾の打楽器よ貌鳥來
大国の愛国教育万愚節
春の雪すぐに崩れる肘枕
山笑う今日はおにぎり御一緒に
投函の音たしかめて四月馬鹿
幻氷も露西亞の領土かも知れぬ
荒星や明日は戦火の無きことを
揺れながら窺う時間 鬱金香
春日傘らら明日が曇りでも
胸に空引き寄せながら鳥雲に
「フーテンの寅」の四の五の四温か
第三十一回 北海道現代
会員作
(六月十九日)

中島 土方 松原 静子 大沼恵美子
中村きみどり 西村 奈津 鮎橋 郁香 江波戸 明
金野 克典 山田美智子
山本 牛歩 粥川 青猿
斎藤 郁子 荒川 美恵
清水 健志 吉野喜代子
横地 妙子 よしざね弓
石川 青狼

第三十一回 北海道現代俳句大会

会员作品抄

(六月十九日・旭川)

名を呼べば陽炎を吐く土の魂
春動く畳横断する地風（じしつ）
鳥雲に空き家に残る火伏せ札
幼子の「死ぬつてなあに」蟻を踏む
鳥帰る握りこぶしに山と谷
彼岸荒れリボンの靴は週明けと
白鳥の風掴むとき北を向く
春の雨志士と交わる社中かな
髪カット春一番に出会ひたり
合掌のかたちに軍手売る三月
独り居の行住坐臥に牡丹雪
ぼた山に埋もれし叫び五月祭
制服の袖持て余す花の雨
あまがへる大人になれぬおどなどち
海猫の第一声や魚の糞
夫の手を借りて坂道あたたかし
朧月上手に嘘を聞いてみる
眼は海の色の自画像雪百日
和菓子屋の客満ちており釧路八重

飯沼 風華
中村きみどり
松原 静子
西村 奈津
早川千鶴子
山田美智子
江波戸 明
金野 克典
吉田 洋子
菅原 穂子
村 牛歩
北原 白道
脇本 千尋
脇本 文子
清水 健志
吉野喜代子
斎藤 郁子
山本 黙
小飼 紫香

第一十八回 東北海道現代俳句大会

会员作品抄

(六月二十六日・釧路)

抽出しにナイフの替刃利休の忌 やちぼうず奇数の列はやや強気 ひらがなの図鑑を送るつくしんば	櫻咲く里にいるなり老いし馬 フルートの少女の像や春夕焼	佐藤かよ子 村川三津子
まだしつぽ残る蛙め若造め こどもの日オムライスには日章旗	サハリンの街並かとも海市たつ 春昼のカフエラテ秘密の箱が開く	鈴木八駿郎 荒川 美恵
よしさね弓 横地 妙子	バードウイーク下駄箱の靴入れ替える	中島 加奈 石川 青狼
（藤田民子氏 特選）	鳥雲に空き家に残る火伏せ札 戦火なお魚に塩振る雪の果	松原 静子 粥川 青猿
（鈴木八駿郎名誉会長 特選）	白鳥の風掴むとき北を向く 履歴書を一度も書かず畠を打つ	江波戸 明 伊藤 やす
（石川青狼会長 特選）	眼は海の色の自画像雪百日	山本 煉 中島 加奈
（吉野喜代子副会長 特選）	ひらがなの図鑑を送るつくしんば 兵隊の足音 蟻は穴を出づ	佐藤かよ子 高橋 テル

バラス敷く無闇矢鱈に露の蓋
寿命百年平らたいらの春光
寛解を五階の窓へ春の雲
老人の自転車のベルとよむ春
桜しへ父居るように寄り道す
叔母が逝く黙食できない通夜の飯
春鹿に此の世の流れ問われたり
センサーにあてがう真顔四月馬鹿
風光る抱かれて帰る幼な靴
露の蓋特等席の眠りかな

荒川 飯沼 北原 小飼 斎藤 郁子 佐藤かよ子 清水 健志 菅原 保子 寺田 中尾 克彦 加奈 中島 早川 千鶴子 西村 奈津 村川 三津子 横地 妙子 村 牛歩 鮎橋 郁香 吉田 陽子 吉野喜代子 脇本 文子 千尋 青狼 石川 脇本 文子 千尋 青狼

はみだせるどこへゆこうか春キヤベツ
目覚めの空も色を準備の木の芽晴
真打ちです大器晩成釧路八重
螺髪めくつくし頭をつくづくと
大安吉日薔薇は楷書で書く
憲法記念日戦死者のない国であれ
春疾風とべる翔べるさ義肢の鶴
強火から沸かす大鍋夏来たる
種を蒔く隙間時間の小さき畝
唇にちよつと甘いかエングサク
桜しへ降る旧奥行白駿遁所
ゴールデンウイーク太めの鶴を折る
春の闇産科棟から乳ぜり泣き
フールオンザヒル蜃氣楼かもガリレオも
黄塵に載塵も交えああ地球
外野フライ追ふお下げ髪初ざくら
春めくや鹿の一団寺巡り
道草や同じ匂いのする人と
アイヌ葱と呼びし時代の昭和かな
コロナ寒机上に並ぶぬり絵帳
新刊の紙の匂いや春の窓
しあはせは小腹に溜めてさくらんぼ
木漏れ日のふいふいふいと五十雀
黄金週間秘密基地から貌出すよう

荒川 飯沼 北原 齋藤 小飼 飯沼 美恵
美恵 風華 白道 紫香 齋藤 風華
菅原 釈子 寺田 保子 佐藤かよ子
寺田 保子 中尾 克彦 清水 健志
中尾 克彦 加奈 中村きみどり
西村 奈津 芳賀 知子 西村 奈津
鮑橋 郁香 早川千鶴子 芳賀 知子
村牛歩 村川三津子 吉野喜代子 鮑橋 郁香
脇本 文子 吉田洋子 村牛歩 脇本 文子
脇本 千尋 吉野喜代子 村川三津子 脇本 文子
石川 青狼

現代俳句協会 本部だより ~

1. 2022年5月31日現在の会員数 4,375名
 2. 協会の「一般社団法人化」について
 - ① 法人の形態は、非営利型一般社団法人とする。
 - ② 法人への転換は、定款、組織などの詳細を顧問弁護士と協議しながら進める。
 - ③ 法人化は、2023年3月頃を目指す。
 3. 『現代俳句』電子書籍版について
4月から協会の海外戦略の一環として電子書籍版が発刊されている。会員は紙版も従来通り配付されるが、無料で閲覧することができる。詳しくは『現代俳句』7月号裏表紙をご覧ください。

第32回 北海道現代俳句大会 開催要項

月日 2023年6月11日(日)
会場 札幌かでる2・7 (札幌市中央区北2条西7丁目)